

平成 19 年 9 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社 マルイチ産商
代表者名 代表取締役社長 神原 剛
社長執行役員
(コード番号 8 2 2 8 名証第二部)
問 合 せ 先 取締役執行役員 宮 下 隆
経理財務担当
0 2 6 - 2 8 5 - 4 1 0 1 (代表)
0 2 6 - 2 2 4 - 5 4 6 5 (ダイヤル)

業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 3 月期決算発表時(平成 19 年 5 月 11 日)に公表いたしました平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)の中間期・通期の業績予想及び配当予想について、下記のとおり修正いたします。

記

・業績予想の修正

1.平成 20 年 3 月期中間期業績予想数値の修正(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(1)連結 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	85,460	178	309	185
今回修正予想(B)	80,654	134	36	48
増減額(B-A)	4,806	312	273	137
増減率(%)	5.6	-	88.3	74.1
(ご参考)前年同期実績 【平成 19 年 3 月期中間期】	84,956	246	417	545

(2)個別 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	84,673	111	307	178
今回修正予想(B)	79,176	201	54	81
増減額(B-A)	5,497	312	253	97
増減率(%)	6.5	-	82.4	54.5
(ご参考)前年同期実績 【平成 19 年 3 月期中間期】	84,173	220	469	643

(3) 修正の理由

セグメント別の修正理由ですが、まず水産事業セグメントにおきましては、全般的な輸入冷凍魚等の魚価高が続く中、特に首都圏エリアにおける販売価格競争が激化したこと、また、中国製品の安全問題が取りざたされる中、7月が最需要期である鰻の販売において、当社グループでは安全・安心の商品供給に努めたものの、中国産加工鰻の販売が大きく落ち込むなどの要因により、売上高が減少し、それに伴い粗利益額が減少する見込みです。

一般食品事業セグメントにおきましては、小売業間の競争激化の影響により、原料、資材等の高騰による仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できなかったことで粗利益率が低下し、加えて、組織小売店におけるセンターフィー等のコスト増加を粗利益額増加で吸収できなかったことなどにより、売上高及び粗利益額が減少する見込みです。

畜産事業セグメントにおきましては、牛肉は国産牛肉の相場高が継続したことにより、消費が低迷し、売上高及び粗利益額が減少する一方、豚肉では売上高を伸ばしましたが、牛肉販売不振の影響を受け、価格競争が厳しさを増し粗利益率が低下し、これらの影響により、売上高及び粗利益額が減少する見込みです。

こうした結果、各事業とも販売費及び一般管理費については、計画に対し削減したものの、主に売上高減少に伴う粗利益額の減少をカバーするには至らず、営業利益、経常利益、当期純利益とも前回予想を下回る見込みです。なお、当期純利益につきましては、グループ内の機能見直しの中で、前期進めた子会社の清算に伴う税効果を計上したことから、前回予想に対し、連結で1億37百万円減の48百万円、個別では97百万円減の81百万円となる見込みです。

2. 平成20年3月期通期業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 連結

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	171,000	600	850	490
今回修正予想(B)	162,322	368	665	343
増減額(B-A)	8,678	232	185	147
増減率(%)	5.1	38.7	21.8	30.0
(ご参考)前年同期実績 【平成19年3月期中間期】	170,136	842	1,161	910

(2) 個別

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	169,300	424	824	478
今回修正予想(B)	161,400	240	660	354
増減額(B-A)	7,900	184	164	124
増減率(%)	4.7	43.4	19.9	25.9
(ご参考)前年同期実績 【平成19年3月期中間期】	168,393	664	1,133	961

(3) 修正の理由

下半期(平成19年10月~平成20年3月)においても、当社グループを取り巻く環境に大きな変化は見込めず、長野県内においては、広域量販店の政策変更の影響もあることから、売上高は減少する見込みとなり、それに伴い粗利益額が減少することから、通期業績予想を上記の通りに修正いたします。

こうした状況の中、当社グループといたしましては、年間最大の売上高、粗利益を計画する12月商戦の計画達成に向けて、きめ細かな顧客フォロー等地域密着の提案型営業を更に強化し、以下の各施策を実行いたします。

具体的には、水産事業セグメントにおいては、首都圏エリアにおける量販店対応の市場外流通機能の整備に着手し、一部顧客でのモデル展開を実行するとともに、社内における機能再編を進めてまいります。また、産地との連携強化により、調達機能、商品開発機能の強化を図り、生鮮魚の朝獲れ提案等の仕組み提案や販促キャンペーンの展開などにより、売上高の確保を進めてまいります。

一般食品事業セグメントにおいては、帳合変更による売上減少分をカバーすべく、これまで取引拡大を進めてきた重点取引先に対するリテールサポート機能を更に強化するとともに、販売価格の見直しや近隣エリアへの新規拡大、新規顧客の獲得などにより、収益改善を図ってまいります。また、ローコストオペレーションの実現に向けた、グループ全体の在庫、物流の一元管理を進めてまいります。

畜産事業セグメントにおいては、下半期には米国産牛肉輸入基準の緩和も予想される中で、豪州産牛肉の販売強化や、グループ全体での部位別販売計画のコントロールを強化し、粗利益確保を進めてまいります。

上記施策にあわせて、同日発表の役員の担当職務変更及び組織変更により、事業推進のスピードアップを図り、下半期以降の収益改善につなげてまいります。

・ 配当予想の修正

1. 平成20年3月期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)期末配当予想数値の修正
(単位:百万円、%)

基準日	1株当たり配当金		
	中間(円)	期末(円)	年間(円)
前回発表予想(平成19年5月11日)	2.00	3.00	5.00
今回修正予想	2.00	2.00	4.00
(ご参考)前期実績 【平成19年3月期】	3.00	4.00	7.00

2. 修正の理由

当社は、株主の皆様に対する継続的かつ安定的な配当を経営の重要施策の一つと位置付け、毎年の利益配当金につきましては、各年度で必要とする内部留保のレベルを考慮しつつも、連結当期純利益の20%前後の配当性向を維持するよう努力してまいります。

平成20年3月期につきましては、「業績予想の修正」に記載しましたとおり、当期純利益が減少する見込みであり、上記の配当方針に則り、期末の1株当たりの配当金につきましては、前回予想から1円減額し、2円(年間4円)とさせていただきます。

(注)

上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成しておりますので、実際の業績は、今後様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性がありますことをご承知おきください。

以 上